

# 森林保全のシンボルに

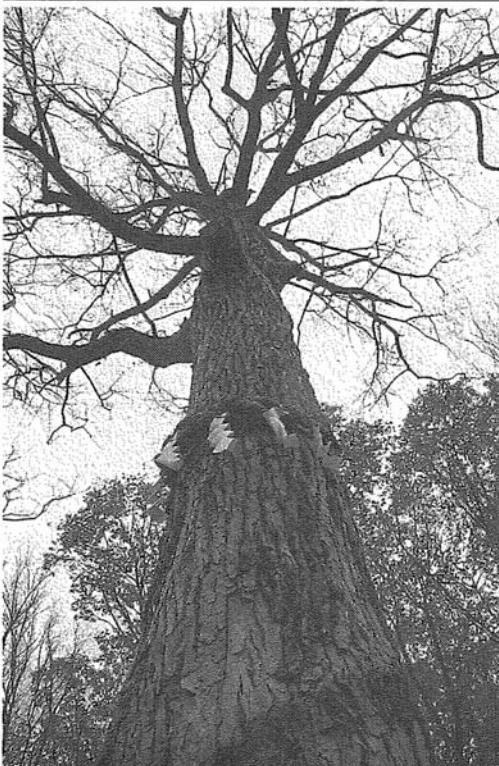
## 苫東一のドロノキにしめ縄

苫小牧地域の工業基地、苫小牧東部地区（苫東）で森林保全などに取り組むNPO法人「苫東環境コモンズ」（原口佳記代表）は、開拓期から地域を見守ってきた苫東一の巨木「ドロノキ」に手作りのしめ縄を飾った。「ご神木」として、今後の森づくりのシンボルにしたい考えだ。

（俵積田雅史）

ドロノキは、株式会社苫東が所有する安平町遠浅の大島山林（約70ha）内にあり、樹齢は推定100年。根元は直径1m以上超。高さ約25mがあり、無数の枝を天に広げている。

大島山林では、株式会社苫東の許可を受けて、コモンズと地元の遠浅自治会の有志が中



行うシンボルツリーにしよう」と、10月からドロノキ周辺の整備を進めてきた。

しめ縄はスゲを材料にコモンズの会員が手作り。長さ約3m。6日に早来神社の宮司高

ノキ

橋晴昭さんを招き、奉納を行った。苫東環境コモンズ事務局、草薙健さん（59）は「大島山林内の整備はまだ3、4秒と1割も進んでいないが、ドロノキに見守られながら作業を進めていきたい」と話している。

森づくりのシンボルとしてしめ縄が飾られたドロノキ

ノキ